



週報

2017~2018年度 RI会長 イアン H. S ライズリー
RIのテーマ 『変化をもたらす』
地区のテーマ 『RI 戦略計画を皆で一緒に実行しよう!!』 がけー 細井保雄

国際ロータリー
第2570地区

狭山中央ロータリークラブ

〔例会場〕 狭山東武サロン〒350-1305 狭山市入間川 3-6-14 TEL 04-2954-2511
〔事務所〕 〒350-1305 狭山市入間川 1-24-48 TEL 04-2952-2277 FAX 04-2952-2366
<http://www.schuohrc.org> E-mail: schuohrc@pl.s-cat.ne.jp
会長 益子伸明 会長I/O 清水幸彦 副会長 松浦法子 幹事 浜野貴子

第3グループ内の例会日] 新狭山(月)、入間(木)、入間南(火)、飯能(水)、日高(火)、狭山中央(火)
所沢(火)、新所沢(火)、所沢西(火)、所沢東(木)、所沢中央(月)

第1172回(3月13日) 例会の記録

点鐘 益子伸明会長
合唱 四つのテスト
第2副SAA 稲見会員 片山会員

※出席報告

会員数	出席者数	出席率	前回修正
31名	30名	96.43 %	100 %

会長の時間

益子伸明会長

ロータリー青少年交換

次年度8月より1年間、当クラブがホストクラブ、カウンセラーになりロータリー青少年交換を実施します。



ロータリー青少年交換とは

異文化を理解し、国境を越えた友情と信頼を築く機会をもたらすことで、世界の平和を少しずつ実現できると信じている活動です。

世界100カ国以上で実施されているロータリー青少年交換は、ロータリークラブによる支援の下、15~19歳の学生が海外に滞在し、言語や文化を学びながら、海外に友人をつくり、世界市民としての自覚を養うことのできるプログラムです。

ロータリー青少年交換でできること

青少年交換でいろいろな可能性が広がります。

- ・自分で考え、率先して行動する力を育てる
- ・外国語や異文化を学ぶ
- ・海外の若者と交流し、友だちをつくる
- ・グローバルな市民になる

交換の期間

・海外で1年間を過ごす長期交換では、複数のホストファミリー宅に滞在しながら、現地の学校に通います。(このホストクラブになります)

・数日間から数カ月間までの短期交換は、夏休みや春休みの期間中に行われます。多くの場合ホストファミリー宅に滞在しますが、世界中の交換留学生たちと合宿やツアーに参加することもあります。

参加費用(長期の場合)

宿泊と食事代、学費はロータリーが負担します。その他の費用は地区やクラブによって異なりますが、通常、以下の費用を学生が負担します。

- ・往復航空券
- ・旅行保険
- ・旅券とビザにかかる費用
- ・小遣い/追加の旅行やツアーに参加する場合の費用

申請方法(長期の場合)

交換学生となるにふさわしい地元の15~19歳の学生が対象です。交換留学の機会があるかどうか、どのように申請できるかは、地元のロータリークラブに直接ご連絡ください。

(2570地区では地元のロータリークラブではなく、地元の学校から留学させたい学生を地区に申請して審査が行われています。地区の予算と各グループの負担で運営されます)

交換留学生のホストファミリーとなることに関心のある方へ

海外からの留学生のホストファミリーとなれば、自宅にいながら国際交流ができ、家族みんなにとって貴重な経験となるでしょう。ホストファミリーは、留学生に個室と食事を提供するだけでなく、家族の一員として受け入れ、地域の行事と一緒にでかけたり、文化体験をさせてあげるなど、留学生にとって非常に大切な存在となります。ホストファミリーの審査は慎重に行われ、選ばれたファミリーは研修をうけます。

(2570地区では学生のホストファミリーとホストクラブに1ヶ月あたり5万円が支払われます。配分は決まっていません)また、滞在時の学生の相談役としてカウンセラーをホストクラブが選出します。

次年度8月より当クラブがホストクラブ、カウンセラーになります。
ホストファミリーは地区内の留学経験家庭に依頼してあります。

交換留学生の運営に関して

交換留学生の運営に関しては、いろいろな考え方があるようです。当初(1970年代)はクラブが率先して活動していました。



しかし、現在では地区が選考し、運営も実質的には地区が行っています。

日本のロータリークラブも少子高齢化の影響を受け、大分様相が変わっているようです。今後も青少年交換を行うのであれば、運営方法やシステムの再考が必要ではないかと思われます。(学生選定、留学先、交換先を含めて)留学を希望した学生が後悔しない運営が望まれます。

幹事報告

浜野幹事

- ・受贈会報 新狭山RC 入間RC 入間南RC
- ・回 覧 AARニュース 3月号

「外来卓話」……

医療法人 尚寿会理事長

大生病院院長 寶積英彦様

『終末期医療について』

今日は誰もが迎える終末期に関してお話をさせていただきます。

終末期というのは皆さん自身が個人で選ぶものですので、こういうものが良いですよと推奨するものではありません。終末期に対してどのように対応していくのが良いのかという事を考えながら聞いていただければと思っております。

平成30年4月から医療業界では診療報酬改定によって、医療保険は2年に1度、介護保険は3年に1度改定があります。6年に1度改定が重なる年があるので、正に今年4月は医療と介護のダブル改定で医療業界が潤うのではないかとと言われており、メディアでも多く取り上げられました。日本の医療費不足は国家財政を非常に圧迫しておりますが、在宅医療が推奨される一つの理由は医療費の削減です。しかしこれは個人の選択であり、個人がどのような終末期を迎えるかという選択は、必ず自身の決断とご家族との話し合いがあった上で決めなければならないという事です。ご自身の最終段階についてはそれを支える側のご家族との意思の疎通がないと非常に難しく、相当なディスカッションを要するものです。特に在宅死に関してはご自身とご家族の根性と気合がかなり必要だという事をご理解いただきたいと思います。

事例を挙げますと、98歳の母親を老老介護する70代後半の娘さんお二人は母親の在宅死を望まれましたが、ご自身にも介護が必要な状態でしたので、訪問診療をする中で入院による治療を勧めておりました。しかしながら途中で方針転換をする要因となったのは、『先生のお母さんではありません。私のお母さ



んです。』という、口調は非常に優しく柔らかな長女さんの言葉でした。この言葉が今でも頭から離れません。要するに、ここに何が生じていたのかと言うと、お母さまご自身の意思・意向、ご家族の気持ちと、医療面から見た医師としての“死”というものに大きな差があったという事です。なぜ医療面からのみご家族を注視し、ご家族の気持ちや感情を理解した上で治療に携わってあげられなかったのか、という事が今でも悔やまれます。

1か月間の訪問診療で母親は亡くなり、当日死亡確認をさせていただきました。長女が添い寝で最後に息を引き取るのを看取ったそうです。先生のお蔭で自宅で看取ることができたというお言葉をいただきましたが、この訪問診療でどれだけ私の方が勉強になったか計り知れません。医師として非常に勉強になった事象で、ここに提示をさせていただきました。

もう一つの心に残る症例は、定年後に余生を狭山市で過ごそうと都内から引越してこられた60代後半のご夫婦のお話です。

新築に引越す1週間前に奥様がとても大きな脳梗塞で倒れ、その後リハビリを重ね、2年後にご本人の強い希望でご主人と同居をする様になりましたが、その半年後に今度はご主人が脳出血で入院されました。お二人とも介護度⑤の状態、2人は完全にベッドの上の生活で、随時訪問介護が入った時に顔を合わせて車椅子で食事し、お昼を食べ終わるとまた1階と2階に分かれてベッドに横になるという生活でした。3年越しの訪問診療がギリギリ1年は続いたある日、奥様が嘔吐して唇がみるみるうちにチアノーゼで紫色になって、明らかに吐物が気管支に入っているのが分かりました。「絶対に入院はしない」というのが彼女の口癖でしたが、容体が悪化して意識が落ちてきていたので、ご主人の了解を得て病院に担ぎ込んでそのまま入院し、8日後に亡くられました。レントゲンでは何れも誤飲性肺炎が認められたので、おそらく嘔吐は初めてではなかった様です。

医師としては当然の処置をしたつもりですが、どこでどの様にして終末期を過ごしたいかというご本人とご主人の意思をきちっと聞かされていまして、正直なところ私が病院に連れて行った判断というのは今でも悔やまれます。ただし、同じケースがまたあったとしたら、どの様な判断を下すかはその現場に遭わないと分かりません。

介護度⑤のご主人は最後を看取することは出来ませんでした。そして『長い間、先生には感謝しています。ただし、もうちょっと一緒にいたかったけどね。』と言われました。どの様な意図でお話になったかは分かりませんが、私がとった行動・行為は本当に正しかったのかどうか、今でも自分に問うています。

終活という言葉が世間にはびこる中で、ご自身の意思、ご家族の意向、そういったものが相当整った状態でないと思う通りにはいきません。今日、私のお話しの中から、いつ、どの様な終末期を迎えるのが自身や家族や周りの方にとって理想的かというのを自問自答していただきたいと思います。ご清聴有難うございました。

ニコニコボックス

益子君 尚寿会理事長 大生病院院長 寶積英彦様
本日の卓話、楽しみにしていました。宜しく
お願いします。

浜野君 尚寿会理事長 大生病院院長 寶積英彦様
ようこそお越し下さいました。本日の卓話楽
しみにしていました。宜しくお願い致します。

東 君 寶積英彦先生、ようこそ狭山中央RCへ！い
っそのまま会員になってください!!

江原君 (医) 尚寿会理事長 大生病院院長でいらっ
しゃる寶積英彦先生、お忙しい中お出で下
さいまして有難うございます。本日の卓話の
演題は「終末期医療のお話し」とお伺いして
おります。私もそろそろ頭に入れておきたい
お話しかと思います。宜しくお願い致します。

稲見君 大生病院 寶積英彦先生、今日はようこそ狭
山中央RCへお出でいただきました。いつも
興味深いお話し楽しみにしています。

片山君 医療法人尚寿会理事長 寶積英彦先生、
卓話楽しみにしていました。宜しく願いし
ます。

菊田君 いつも診察有難うございます。

小島君 (医)尚寿会理事長 大生病院院長 寶積英
彦先生ようこそおいでいただきました。お話
楽しみにしておりました。宜しくお願い致し
ます。

栗原(憲)君 尚寿会理事長 大生病院院長 寶積英
彦様、ようこそお出で下さいました。

栗原(成)君 寶積先生の卓話は年を重ねるにつれ、
とても勉強になっています。本日も宜しくお
願いします。

松浦君 (医)尚寿会理事長 大生病院院長 寶積英
彦様、お忙しい中有難うございます。本日
の卓話宜しくお願い致します。

守屋君 寶積先生、お忙しいところをお出で下さいま
して誠に有難うございます。

小幡君 寶積先生、お忙しい所卓話有難うございま
す。

奥富君 大生病院 寶積様、今日の卓話宜しくお願
いします。

佐藤君 もう何回目になりますでしょうか。(医)尚寿会
理事長 大生病院院長 寶積英彦様、毎回
毎回楽しみにしております。本日も勉強させ
て頂きます。宜しくお願い致します。

清水君 (医)尚寿会理事長 寶積先生、本日はご多
忙の中有難うございます。卓話宜しくお願
い致します。

田端君 (医)尚寿会理事長 大生病院院長 寶積先
生、本日は狭山中央RCにようこそお越し頂
き、学ぶ機会を与えて頂きます事、感謝申
上げます。

高田君 寶積先生、お忙しい所お出で頂きまして有
難うございます。卓話楽しみです。

若松君 寶積先生、今日の卓話楽しみにしていました。
宜しくお願いします。

会員誕生 柴田君

結婚記念 栗原(憲)君



◆次の例会

・3月27日(火) 12:30～

第二副SAA：小室会員 栗原(憲)会員

会員卓話：伊藤敏子様

『健康体操』